

残らなかった史料から考える

—鎌倉幕府の成立が出雲国に与えた影響— 20130112

原慶三（中世史部会）

1、はじめに

史料は意図的に残され、または廃棄される。その結果として現在の史料がある。

例① 17世紀中頃の出雲国での神仏分離の結果、神社にあった仏教に関する史料は廃棄される。

例② 譲状（何度でも変更可能、悔返）や恩賞に関する文書は、最終的なものが多いが、時に例外がある。

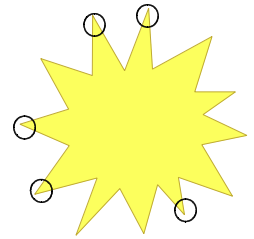
（尼子氏が京極氏から与えられた書状は本来は残されないが、意図的に残された）

例③ 史料は、それにより利益を得る立場の人々が残す。

（Aに対するBによる押領を停止せよと国人Cに宛てた文書は国人Cではなく、Aが残す）

例④ 出雲国の寺社で史料を残すのは、戦乱による焼失を免れたところ。

（16世紀半ばに清水寺と鰐淵寺が朝廷で三問三答を行ったが、清水寺側が史料のほとんどを失ったこともあって、鰐淵寺はその多くを残している）



系図史料について

系図史料も①基本的には事実を伝えるために作成されたが、②後に必要に応じて削除されたり、③加筆された部分がある。この①②③を明らかにしていく必要がある。

一次史料もその一部が意図的に残されたものであり、発給者・年次・真偽の判定が容易でないものもある。すべての史料は総合的に判断して利用する必要がある。

ここでは中世前期の出雲国衙在庁官人勝部宿祢に関する系図（大伴氏系図）を使って、表記のテーマ（鎌倉幕府の成立が出雲国にもたらした影響）について考える。

2、鎌倉幕府の成立と出雲国

（1）新修島根県史段階の説（藤岡大拙氏）

① 出雲国領主（武士）は源平争乱では平家方（一の谷合戦への参加、『平家物語』）

② 承久の乱後の東国御家人の比率の高さ（文永8年関東下知状）

東国御家人の比率の高さは、源平合戦で平家方となった武士が多かったから。

（2）原説1（「鎌倉期出雲国の地頭に関する一考察」1982年、『竹矢郷土誌』1989年、「鎌倉期の日御崎社」1989年、「出雲朝山氏関係系図を読む」1993年）

① 文永8年段階の地頭の出自を明らかにする。

② 鎌倉初期に地頭が設置・未設置が確認できる例を検討し、国衙の有力在庁官人領を中心に未設置が多数であったことを明らかにする（例外は能義郡・大原郡）。

③ 鎌倉後期の得宗領（含む幕府領）の増加を明らかにする。

- ④国衙在庁官人筆頭朝山氏とその一族について明らかにする。
- (3) 原説2 (「中世前期出雲大社史の再検討」2004年)
- ①承久の乱以前に出雲国領主(国御家人)が地頭となる例があったことを明らかにする(内蔵孝元のみならず、国造出雲孝綱、三処(勝部)氏)。
- ②鎌倉初期に地頭未設置であっても、源平合戦に伴う領主一族間での交替を考えるべきことを確認(牛山佳幸「諸国在国司職沿革考証」『史正』10、1980年)。
- ③出雲国在庁官人の12世紀半ばの序列を明らかにする。
- (4) 原説3 (「鎌倉幕府の成立と出雲国」2007年、『出雲塩冶誌』2009年)
- ①出雲国在庁官人の12世紀末の序列を再確認し、朝山氏が在庁官人筆頭となるのは承久の乱後であることを明らかにする。
- ②承久の乱後の国御家人の没落と東国御家人の大量入部の背景に、後鳥羽側近源有雅が知行国主であり、後鳥羽一実朝ラインの下、国御家人の地頭化が進んでいたことを指摘。守護某も後鳥羽方であったことは従来から指摘されていたが、同じく守護佐々木廣綱が後鳥羽方であった石見国では益田氏など国御家人の多くがその所領を保持している。
- ☆承久の乱後の出雲国の処理をめぐり島津氏などの東国御家人が出雲国に動員されている。

3、大伴氏系図

この系図を残したのは多祢氏一族の「重綱」の子孫とするが、多祢氏惣領は14世紀半ばの清頼の子まで、朝山氏惣領は14世紀前半の景綱(景連父)まで記す。その記載内容は一次史料と合致するが、一次史料に登場するが系図にみえない人々も多い。

☆「勝部」と「大伴」……本来、出雲国の勝部宿祢であるが、朝山氏惣領師綱(景連孫)が將軍義満の相伴衆として活躍する中で、「大伴」を名乗るか。

①系図に登場する人とししない人

	登場しない人々	登場する人々
12世紀半ば	勝部宿祢惣領「孝盛」	NO2 勝部元宗
源平争乱期*	塩冶、三代・木次 多久、横田、富田	朝山
12世紀末	勝部宿祢惣領資盛 塩冶郷司政光	勝部宿祢惟元(朝山郷司) 勝部宿祢孝光(法吉郷司) 勝部宿祢明元(万田郷司)
文永8年	長田蔵人	長田四郎兵衛尉(昌元)
元応2年	長田太郎左衛門尉雅綱	

* 益田氏が岐須木次郎兄弟弑人・横田兵衛尉等を追討を命じられる。

塩冶太夫、多久七郎、朝山・木次・三代が一党、富田押領使、横田兵衛尉惟行[澄]

②勝部宿祢と石清水八幡宮の関わり

八所八幡宮

(保元 3 年) 横田別宮 安田別宮 赤穴別宮 枚浜別宮

日蔵別宮 新松別宮 白上別宮 大田別宮

(元暦 2 年) 安田庄 横田庄 赤穴別宮 救浜別宮

日蔵別宮 新松別宮 白上別宮 大田別宮

石坂保

大規模……安田、横田、赤穴、平浜（竹矢郷）、石坂保（郷）

小規模……日倉[多祢郷]、新松[朝山郷]、白上[佐世郷]、大田[塩冶郷]

☆神門郡上島村杉村神社境内社八幡宮棟札に「大田別宮」

③勝部宿祢一族

1) 大原郡系（元宗系）

佐世氏系（佐世・湯：大西、朝山・佐陀・石坂氏系）と多祢氏（多祢・長田氏系）、
万田氏系（多久・万田氏系）、平田氏氏（平田・法吉氏系）

2) 仁多郡系（横田氏・仁多氏・三処氏）

東国御家人中郡氏と出雲国御家人（朝山・仁多・小堺・佐々布）の婚姻関係

重経……承久の乱で大原郡久野郷の新恩地頭。その後、本領常陸国中郡を失い、出
雲国へ入部し、朝山氏女子と結婚。

重経子道意と孫清経……仁多四郎重綱女子と結婚

重経子光経……佐々布三郎朝重女子と結婚

重経孫泰経……小堺（境）二郎信盛女子と結婚

横田氏と三処氏

横田氏は源平争乱で平家方となり没落し、その跡には三処氏が入る。次いで、三処氏は横田庄地頭となり、東国御家人の女子と結婚。三処左衛門尉が死に、後家尼が地頭となってから年貢未進問題が発生。後家尼は地頭職を六波羅探題北条時輔（時宗庶兄）に寄進し、地頭代となるが、時輔は時宗に殺害され、時輔母尼妙音が横田だけでなく、三処郷の地頭にもなる（三処尼）。

仁多氏

観応 2 年（1351）9 月に、三刀屋氏、桑原氏、若槻氏、片山氏とともに、山名時氏方として仁田彦四郎一族が三刀屋郷石丸城に立て籠もり反幕府方として旗揚げ
☆永正 17 年に海老山城主仁田右馬頭が佐陀社領を侵犯したとして、佐陀氏に滅ぼされる。

3) 神門郡系（塩冶氏？）

4) 飯石郡系（？本来多祢氏はこちらか、出雲郷・長田郷に「多祢分」あり）

☆有力東国御家人の中には鎌倉初期に地頭として入部するものあり

例：佐々木氏……乃木氏（乃木・乃白）、吉田氏（吉田）

土屋氏（土肥氏一族）……福田庄（加茂庄）、大東庄など

守護？……富田庄

④出雲郷)

『出雲国風土記』には出雲郡「出雲郷」と神戸

中世には意宇郡出雲郷で出東郡「出西郷」と「大田郷」(千家・北島・求院)

公領最大の出雲郡と隣接する竹矢郷を誰か支配していたのか。

勝部宿祢惣領孝盛と助盛は出雲郷その他を支配か。

☆承久の乱後の守護領……富田庄*、美保郷、平浜八幡、塩冶郷、美談庄、古志郷
得宗領……意宇郡竹矢郷、出東郡神立社、飯石郡須佐郷(出雲氏領)

多胡氏領……出雲郷、馬木郷、平田郷

☆朝山氏領……朝山郷、楯縫東郷、楯縫西郷、三津庄

湯郷・拝志郷・佐世郷 → 佐々木泰清子七郎頼清へ

⑤12世紀半ばの序列)

1) 庁事(勝部) 孝盛 2) 庁事兼時 3) 庁事忠政 4) 庁事兼政

5) 庁事(勝部) 元宗 6) 在庁季宗 7) 在庁助真 8) 在庁兼吉

☆国造出雲兼忠 弟兼成 子顕兼

⑥源平争乱の影響

1) 清盛との関係

蓮華王院領加賀庄・持田村 ☆上西門院領長海庄

2) 摂関家領と平家による押領

近衛家領福頼庄(出東郡)・吉田庄(能義郡)、摂籙渡庄富田庄(能義郡)・宇賀庄(能義郡)

⑦12世紀末の序列

建久2年 *は承久の乱で没落

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1) 庁事勝部助(資) 盛* | 2) 庁事中原頼辰(秋鹿郷)* |
| 3) 庁事中原時光(伊野郷)* | 4) 庁事藤原孝政(漆治郷)* |
| 5) 庁事出雲季成(盛、山代郷)* | 6) 大判官代藤原孝兼(?) |
| 7) 在庁勝部明元(万田郷・多久郷*) | 8) 在庁勝部政光(塩冶郷*) |
| 9) 在庁勝部孝光(法吉郷*・平田保*) | 10) 在庁出雲忠康(須佐郷*) |
| 11) 在庁出雲某(?) | 12) 在庁勝部惟元(朝山郷) |

⑧承久の乱の影響

1) 乱の前……後鳥羽の側近源有雅が知行国司で、将軍実朝の幕府と協調関係
国御家人が領家や国司の了解のもと地頭職に補任される。

2) 乱への関わりにより出雲国衙の有力在庁官人は悉く没落し、その跡の一部を一族
で乱への関与が薄かった人物が継承。

☆朝山氏惣領も惟元嫡子惟綱から庶子元綱系に交替

☆貞永元年……在国司と庁事 3 人

☆13世紀半ばの序列

- 1) 在国司勝部（朝山）昌綱 2) 庁事藤原長政 3) 庁事平季政
- 4) 庁事藤原資長 5) 庁事平実盛 6) 庁事勝部（平田）広政
- 7) 庁事勝部（長田）時元

⑨女性の地頭

- 1) 別符左衛門妻……来海庄、中須郷、静雲寺地頭

武蔵国出身の別符左衛門満資（成田氏同族）の所領を妻が継承

- 2) 金子左衛門三郎女子……意東（筑陽）庄

武蔵国出身の金子左衛門三郎の所領を女子が継承

- 3) 大西二郎女子……湯郷・拝志郷地頭（大西庄地頭は飯沼氏）

☆佐世郷地頭……湯左衛門（清綱）四郎

- 4) 秋鹿二郎入道女子……津田郷地頭（秋鹿郷地頭は土屋五郎）

☆比知新宮地頭阿井氏と阿井郷地頭法華堂別當僧都（吉見氏出身）

在庁官人中原氏は秋鹿郡秋鹿郷・伊野郷とともに津田郷も支配していたが、承久京方により秋鹿郷と伊野郷を失った。津田郷については、一部が他氏（伯耆国日野氏）に与えられたが、主要部分は関係者で乱への関わりが少なかった人物に与えられた。

- 5) 三処左衛門（長綱）後家尼

北条時輔尼妙音は三処氏出身（今野慶信氏、史料編纂所杉山氏の説、弘安4年（1281）の横田八幡宮造営の棟札には願主として「地頭平氏三所比丘尼妙音」がみえてい

る。）？
妙音：左親衛[時頼]の妾・幕府女房、男子平産すと。今日字を授けらる。寶壽と。

（吾妻鏡1248年5月28日条）

「鎌倉年代記」によれば……（北条時輔の）母・將軍家讃岐

「武家年代記」によれば……（北条時輔の）母・讃岐局、御所女房

『系図纂要』の北条経時子隆政（時）には母將軍家女房讃岐

⑩国御家人のその後

文永8年		その後
1、湯郷	大西二郎女子＊	佐々木頼清
2、拝志郷	大西二郎女子＊	佐々木頼清
3、佐世郷	湯左衛門四郎＊	佐々木頼清
4、佐々布郷	佐々布左衛門入道	備後国へ進出し、高師泰の守護代
5、大守社	佐々布左衛門入道	となり没落
6、津田郷	秋鹿二郎女子	？
7、長田西郷	長田四郎兵衛尉＊	佐々木（羽田井）高泰ら
8、長田東郷	長田蔵人＊	野中将監→朝山氏

9、枕木保	長田蔵人＊	？
10、佐陀社	佐陀神主＊	島根郡分と秋鹿郡分に分かれる
11、国屋郷	佐陀神主＊	？
12、三処郷	三処左衛門尉後家	鰐淵寺 → ？ → 三沢氏
13、比知新宮	阿井兵衛尉子	
14、多祢郷	多祢＊	守護京極氏領
15、日蔵別宮	多祢＊	？
16、来島庄	来島松助入道	来島和田氏
17、伊秩庄	来島松助入道	？
18、小境保	小境二郎（信盛）	小境氏
19、玖潭社	玖潭四郎	塩冶氏
20、万田本庄	万田二郎太郎＊	？
21、万田新庄	万田七郎＊	？
22、朝山郷	朝山左衛門尉跡＊	朝山師綱 → 幕府御料所
23、楯縫東郷	朝山左衛門尉跡＊	？
24、楯縫西郷	朝山左衛門尉跡＊	？
25、三津庄	朝山左衛門尉跡＊	？

[三処氏と妙音関係系図]

